



今春の採用を経て、同社の従業員数は初めて100人を突破した。野村社長は「従業員が増えた分、社員教育が重要になる。当社は多品種少量生産を旨とするだけに、製造にしても営業にしても覚えることは山ほどある」と語り、自ら先頭に立って、南武イズムの伝承に努める。

## 改革

～現場からの報告～

南武

リードタイム短縮

南武(東京都大田区、野村和史社長、03・3742・7377)は、金型用中子抜き油圧シリンダーでトップシェアを誇る。自動車業界向けが特に好調で、04年9月期の受注は過去最高を記録。今年度も受注量が前年度比15%強の伸びで推移しており、この春、生産能力1割向上を目標に工場増築と部品生産の外部委託に乗り出した。

本社に六つある工場棟のうち、二つの工場棟の間にあった土地を借り、両工場を連結。連結部分には部品倉庫を移転した。「両工場の間」に倉庫を置くことで、従業員の歩き回る範囲が少なくて済み、リードタイム短縮につながった(野村社長)。

現場で活躍する女性社員。NC機のプログラミングもすっかりこなす

## 工場間に部品倉庫連結

女性に快適な職場

一方、部品の外注では大田区内で委託先を探したが「技術力のある企業は自分の仕事で手いっぱい(同)」。考えた末に取引先の自動車メーカーから系列工場を紹介してもらったことを思いつき、結果的に外注先を2社確保できた。

好調で活気に満ちた同社の工場内を歩いてみると、若手、中でもNC機を操る女性従業員が姿が目立つ。総務や営業部門も含めた全従業員のうち、4分の1は女性。野村社長は「女性にとって快適な職場は、男性にとっても快適」とし、女性の採用は男性従業員のモチベーション改善にも効果があることを指摘する。

若手の意見も採用

「経験の少ない若手が生産現場の改善案を出すのは難しい(同)とする一方で、生産以外の面では若手の意見も積極採用。その一つが今春から始めたインターネットの就職情報サイトを活用した人材採用で、4人の募集に対して54人が応募するという盛況ぶりだった。

今春の採用を経て、同社の従業員数は初めて100人を突破した。野村社長は「従業員が増えた分、社員教育が重要になる。当社は多品種少量生産を旨とするだけに、製造にしても営業にしても覚えることは山ほどある」と語り、自ら先頭に立って、南武イズムの伝承に努める。